



図書だより 第5号

平成 26 年 2 月 19 日 図書委員会

3 年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。高校 3 年間は早かったと感じられている事でしょう。これから皆さんはそれぞれの大学や専門学校へと進学したり、あるいは就職することでしょう。高校生活で学んだ事が必ずどこかで生かされる時がきます。

高校三年生までの期間は、皆さんが歩む道への準備期間であり、本格的な勝負はこれからです。失敗しても大丈夫。成功に失敗はつきものですから。若い皆さんの可能性は無限に広がっています。これからが本当の勉強のはじまりと思って、力強い一歩を踏み出して欲しいと願っています。ご活躍を祈っています。

春休みの開館について

春休み中は、図書室は閉館しています。春休みに読みたい本がある人は、3月9日から20日までに図書室で貸出手続きを行ってください。このとき借りた本は、春休み明けまで借りることができます。長期間の貸出になりますので、それまで本を失くしたり壊したりしないように、自分でしっかり管理してください。春休み中に読み終わった本を返したい人は、返却ポストに入れてもらえれば大丈夫です。宜しくお願いします。

なお、本の返却期限が過ぎている人のところには、督促状がいつています。早急に、返却ポストに入れるようにしましょう。まだ読み終わってないからといって、本を返さないまま春休みに入らないように十分注意してください。



多読者賞について

今年度、たくさん本を読んでもくれた人のランキングをだしました。集計期間は、平成 25 年 4 月～平成 26 年 1 月までです。第 1 席に 3 名。第 2 席に 6 名を選びました。第 1 席の 2G の永井佑実さんは、一番多く 100 冊近く読んでいます。

来年度は、みなさんもたくさん本を読んで表彰されるように頑張りましょう。



【第一席】				
2G	永井 佑実	98 冊		
3A	杉浦 啓介	76 冊		
3H	杉田 江美	45 冊		



インドの雪山にいる「寒苦鳥」知っていますか？



もしかしたら物語を聞いたり、読んだりした人もいるでしょう。古くから伝わる仏教のお話です。

昔、インドの雪深い山に、寒苦鳥と呼ばれる鳥が暮らしていました。雪山の夜はとっても寒いので「寒くて死にそうだよ」「夜が明けたら、さっそく巣を作ろう」と鳴いていました。夜が明け、日が昇ると朝日が暖かいので忘れてしまう。結局、巣をつくらぬまま夜を迎え、また寒さに震える。「明日こそ、巣を作ろう」……。でも、また次の日になると忘れてしまう。そうやって、一生巣を作ることなく、空しく泣き続けるのだそうです。

これって、みなさんがよくわかっている戒めですね。本当に誰もが思い当たるのではないのでしょうか。寒鳥のようにならないためにも、今すぐわらの一本でも用意してみましょう。最初の一步がおっくうに思うだけで、一歩踏みだせば、寒鳥ではなくなりますよ……。目標に向かって、少しずつコツコツと始めてみませんか。



携帯小説について

「図書館にケータイ小説ありますか？」という質問を受けたことがあります。いわゆる「ケータイ小説」ブームがピークを迎えたのは 2007 年……とも言われていますが、いつのまにか書店に「ケータイ小説」コーナーができ、ひとつのジャンルとして市民権を獲得していることに驚かされています。「ケータイ小説」の特徴は、横書きである。段落わけが多く、書き手と読み手の距離が近いことから、共感できるという理由から、10 代から 20 代の女性を中心に広い支持を集め、友情や恋愛が描かれているものが多く、同世代の話として感情移入しやすいものだと思います。また、「読みやすい」との声もあります。

図書館では「日本で書かれた小説」として分類され、913 という分類番号の書架に、小説や文学作品と一緒に並んでいます。

【現在蔵書に含まれているケータイ小説】

メイ「赤い糸」 美嘉「恋空」 べあ姫「過去で君が待っている」

裏面に 3 年生担当の先生方からの「おススメの一冊」を紹介してあります。実際に手に取って読んでみてね。。